

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町提出日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30年 9月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が暮らしやすく、思いやりのあるグループホームを目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台に立地し、四季折々に変化する木立に囲まれた4階建ての3ユニットである。各階のベランダからは桜などのお花見や夏の花火・津の町が一望できる。眼下には散歩コースとなる公園があり、恵まれた環境である。「和顔愛語」を理念に笑顔で和気あいあいと利用者に寄り添い、利用者の思いや意向に沿うように努めている。併設にデイサービスやショートステイがあり、お琴などの演奏会や行事がある時は合同で参加し、知人・友人と仲良く談笑する場を多く設け、利用者の気分転換を常に図るなど工夫をしている。事務室に「笑がおと 笑がおで つながる心」の標語を掲げ、管理者と全職員がいつも笑顔を決やさず利用者の日々のケアに取り組んでいる。利用者の顔は穏やかで職員との仲も良く、笑顔の多い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様を大切に介護の基本を重視し、継続できるよう取り組まさせていただきます	事業所としての理念「和顔愛語」は大切であり、管理者は日常的に理念の意義に振り返り、職員と共に考え話し合い、一人ひとりの介護の実践に取り組んでいる。新入職員にはDVDを見ながら研修をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と行事などを通じて交流を図っています	自治会との繋がりは深く、地域の行事には利用者と共に参加している。事業所敷地内での恒例となっている夏祭りは盛大で、地域住民含め400人規模の一大イベントとなり、事業所自体が地域の一員となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームが地域に役に立つよう、認知症の方の支援に取り組みたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において施設の説明や介護保険制度の説明を通じて意見交換を行っている	年6回、地域の自治会員多数の出席で開催している。開催が夕刻の為、家族の参加が難しく課題であるが、出席しやすい工夫を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護、指定更新、職員人員配置等の相談に乗ってもらっています	市へは介護保険の更新手続きや生活保護利用者の入居相談などで出かけており、助言を得る等、関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行ったり、日々の話し合いの中で理解を深めケアに取り組んでいる	「高齢者虐待防止学習テキスト」を使用して、毎年、研修予定表に基づき勉強会を行い、身体拘束および言葉の拘束についても管理者・全職員で話し合っている。玄関は昼間、無施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行ったり、日々の話し合いの中で注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて勉強する時間を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ず説明をし理解を得たうえで契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を通じて意見をお聞きし職員間で話し合いを行い出来る事はすぐに取り組んでいる	家族の参加が多い恒例の夏祭りに日常の様子を伝えたり、ホーム便り「ひまわり通信」を郵送して、家族からの意見や要望が言いやすい雰囲気作りを心がけている。年末に家族アンケートの実施を予定している。	管理者・職員で利用者・家族の意見や要望の吸い上げ方法を考え、それらを運営に反映させることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見交換を行ったり全体で意見交換を行ったりしながら運営に反映している	管理者は年2回の個別面談の他、毎月の職員会議などで職員から意見や要望が出しやすい職場作りに努めている。出された意見は管理者が代表に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、諸規定、職場環境の整備、点検を行い働きやすいよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらいレベルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設で経験のある方を施設内研修会の講師として招き取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後に思いや希望されることをよく聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後に要望されることをよく聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な要望に応じられるよう、出来る限り対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時を過ごす者同士助け合いながら協調し良い関係になれるよう取り組んでいる 利用者不在となる事にならないよう気を付けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入り良い関係が生まれるよう取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係は大切なので途切れることが無いように取り組んでいる	併設事業所にデイサービスやショートステイがあり、知人が利用された時など訪問してくれる。また、知人や家族に年賀状を出すなど馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな場面において利用者の間を取り持つように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても相談援助を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前後に思いや希望されることをよく聞くようにしている。また入所された後も本人の望む暮らしの把握に取り組んでいる	日頃の会話や表情から利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、一人ひとりの声掛けや一寸した仕草からも気づきを知り、個別の支援経過に記入し、管理者・職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話を通じて今までの暮らし方や過ごし方を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接している中で様子を伺い現状の確認をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づいてケアが行われなければならないので、職員に周知をし変化があれば見直しをしている	介護計画は、利用者・家族・担当職員・主治医の意見も取り入れフロアー会議で作成している。月1回のモニタリングを実施し、3か月毎に管理者と計画作成者で評価し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医師の指示、家族の希望、バイタルチェック、水分食事量のチェック、日常生活の様子をチェックし介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族と協議し柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については情報収集を行い取りくみたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医があれば継続して支援を受けてもらうように話をしている。施設の協力医と連携できる体制も取っている	利用者の約三分の一が協力医で、月2回の往診がある。他は家族の協力で、かかりつけ医を受診しているが、常に適切な医療が受けられるように支援している。急変時は、看護師不在でもあり救急車のお世話になる時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師と連携を取りながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は職員同行し病状把握に努め、入院中においてもケースワーカーと連絡をとり今後の事について相談をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族と相談しながら重度化、終末期の話を進めています	入居時に看取りや重度化に向けての指針を文書で説明している。事業所での対応が困難になった時の準備として、施設入所の情報提供や相談に乗っている。また状態の変化によって、その都度、家族と話し合いの場を設け、利用者にとって一番良い方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起きることを想定し日頃から対応につて話合っています。慌てたり、動揺することのないように取り組んでいます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法、避難場所の確認を日頃からは行っている。地域の代表の方にもお願いをしています	消防署立ち合いの下、併設する事業所と共に年2回の防災訓練を実施している。2・3・4階からの避難方法や冬場の停電時の対応を考え、石油ストーブや毛布の備蓄を検討している。	何時起こり得るかわからない災害時に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難できる方法や地域の方よりの協力(応援)方法及び非常用備品など再度の見直しが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重は大切にしなければなりません。他人の前、個々の対応時でも人権を無視するような言動はしないよう取り組んでいます	人生の先輩としての対応に心がけ、特に言葉使いに注意を払っている。気になる対応があると管理者はその都度、職員と話し合い指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	接している中での、何げない言葉の中に思いが現れたりします。思いを受け止め支援が出来るように取り組んでいます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、お風呂の日であってもなくても入りたいと言われれば入浴して頂く。柔軟に対応出来るように取り組んでいます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることで気分が引き締まります。朝夕に着替えをしたり、季節に合った衣類を着る事で健康維持も図れます。おしゃれは楽しみの一つです。自分のお気に入りの着てもらうよう支援します		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものを食べることは楽しみです。準備、後片付け、テーブル掃除に手伝ってもらっています	献立・食材は業者から届き、職員が3食とも調理している。月1回のオリジナルメニューは利用者の希望に沿った楽しいメニューとなっている。食事の配膳・下膳・テーブル拭きなど、利用者が出来る範囲を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や体調に応じて食べやすいように工夫をしています。水分も気を付けて取ってもらいチェックしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し口腔ケアに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量が多い方はパットを使用しますが、声かけ誘導し出来るだけトイレでの排泄に向けて取り組んでいます	各居室にトイレが設置されていて、利用者が使用する度にチェック表に記入すると共にズボンの上げ下げなどの支援で入室している。夜間のみ転倒防止から数名がオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給(朝にお水、牛乳)や体を動かしてもらう。便秘の方は医師の指示のもと下剤を服用してもらう		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で進めるのではなく、個々の気分に沿った支援に心がけています。お湯は一人ひとり交換しています	感染予防・一番風呂希望者などを考慮し、一人ずつ湯を入れ替えながら、週3回午後からの入浴を基本としているが、利用者の希望や健康状態にも配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りにつきやすいように寝具を整えたり、温度調整照明を暗くする、巡視時の足音など配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を間違はないように名前確認し、渡す前にも再度確認をします。薬の効果、副作用についても確認しています。異常があれば医師の指示をもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、お誕生会などで変化を取り入れています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(花見、外食、ドライブ)での気分転換を図っている。家族と外出をされる方もおられます	広い敷地内に散歩コースがあり、桜・山栗・アケビの木立の中を沐浴しながら利用者は気分転換を図っている。公園には花々が、畑には季節の野菜や果物が実っていて休憩できる東屋もある。また家族の協力で受診・ドライブなどの外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については家族と相談し持ってもらうようにする。近くの自販機で飲み物を購入されたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして欲しいと言われた時は施設の電話を利用してもらっている。携帯電話を持っている方も見えます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は少し狭いですが、居心地は良いと思います。光、風もよく通ります	2・3・4階の広いフロアの窓からは、木々などの眺めが良く見えて心癒される空間となっている。壁には四季折々の手づくり作品が飾られ、事務室からは全居室が見渡せ、対面キッチンからからも調理をしながら、笑顔で利用者の見守りが出来る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分の中にも狭いですが、一人ひとりの居場所が確保されています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の空間として落ち着くところなので馴染みのものを持ち込んだり、自由に使用してもらっている。床暖もあり快適な空間となるよう取り組んでいる	カーテン付トイレ、洗面台、木製の作り付けロッカー、ベットなどが事業所として設置されている。他は自宅同様の生活用具を家族協力で持ち込んでもらい、楽しく過ごせるような工夫をしている。特に冬場の床暖房は利用者に大変喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はエレベーター、階段があります。ホーム内は段差はありません。居室、フロアー、廊下も障害物なく安全です		